



出小だよ

出雲崎小学校だよ No.3
令和6年6月20日



<http://izumo-es.izumozaki.ed.jp/>

E-mail izumo-es@izumozaki.ed.jp

全力・さわやか◇笑顔と涙の運動会ーご協力に深く感謝

校長 _____

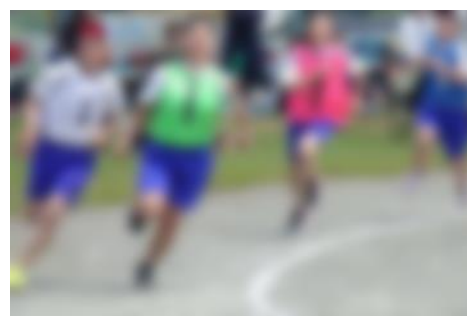


5月25日(土)、令和6年度の運動会を実施しました。子供たちの努力や願いにこたえるかのような、運動には絶好のコンディションとなりました。

子供たちは、練習の成果を発揮し、全力で競技や応援に挑みました。勝って素直に喜ぶ姿、負けて悔し涙を流す姿がありました。また、お互いの健闘を称え合う姿、閉会式後は、6年生の頑張りに下級生が感謝のエールを送る場面もありました。その姿は「やり切ったぞ」という達成感や満足感にあふれていました。これも、ご家庭での励ましや当日の大きなご声援のおかげです。本当にありがとうございます。どの子も全力を尽くし、大きな成長の機会と

なった運動会でした。

また、フィナーレを飾った出雲崎おけさでは、今年も大勢の方から参加、ご協力をいただきましたことへ感謝申し上げます。子供、保護者、地域の皆様が一体となって踊る姿は、出雲崎ならではの一体感がありました。運営にご尽力いただいたPTA役員の皆様、片付け作業等をお手伝いくださった保護者・地域の皆様、ありがとうございました。



成長と幸せを願って～子供を勇気づける指導・支援を進めます

自尊感情って？

4月のPTA総会でもお話ししたとおり、学校では自尊感情の育成を大事にしています。自尊感情とは、できることもあれば、できないこともある、そんなありのままの自分をかけがえなく、価値ある存在としてとらえる気持ちです。これは、自分を大切にすることでなく、自分以外の人のことを大切にできる気持ちでもあります。その子らしさを大切に、将来も子供を支える感情です。

大切に育みたい気持ち

大人もそうではないでしょうか。何もかもが完璧というわけではなく、得意なこともあれば、苦手なこともある…不完全ながらもそんな自分を認め、「誰かを支えたい、社会に貢献したい」と願いながら日々を送っているのではないのでしょうか。自尊感情は、子供が社会生活を送っていくうえで大切な感情です。子供に関わる大人は、言葉や行動で「あなたはかけがえのない存在」というメッセージを子供に対して送り続けたいものです。

優しく朗らかで、のびやかに自己表現ができる出雲崎小学校の子供には、ちゃんと自尊感情が培われています。子供たちの幸せのために、子供たちに芽生え始めたこの感情を、保護者・地域の皆さんと大切に育て上げたいと願っています。

自尊感情と自己肯定感って違うの？

自尊感情と似た言葉に自己肯定感（「自分にはよいところがある」と認める感情）があります。「自己肯定感の育成が大切」「日本の若者は諸外国に比べて自己肯定感が低い」など、報道等でよく目にする言葉です。自己肯定感は、「よいところも悪いところも含めて自分自身を認める」自尊感情という土台があってこそしっかりと築かれていくものです。小学生には、まず、自尊感情の育成が必要です。

どうすれば育っていくの？

自尊感情は、子供同士や大人、様々な人との関わり合いをとおして育まれます。

成長期の子供にとって大切なことは、「愛される」「ほめられる」「認められる」「感謝される（人の役に立つ）」経験です。自尊感情は保護者・教師・友達・地域住民等との関係といった人間関係の中で育っていきます。この関係者同士の結束力こそが、出雲崎小学校の強みです。まずは、子供を大いに愛し、ほめてあげましょう。さらには、「こうしたい」、「こうなりたい」という子供の気持ちや行動を認め、「ありがとう」の言葉をたくさん贈りましょう。その積み重ねが、お子さんの毎日を充実させ、自尊感情を高め、生きる希望へとつながります。

【愛される経験】

何より大切です。愛されるべき自分への信頼、自分を愛してくれる人への信頼が絶対に必要です。

【ほめられる経験】

自分が頑張ったことを誰かにほめてもらうのは自信ややる気につながり、自己肯定感も高めます。

【認められる経験】

○自尊感情は、「認める」ことで高まります。年齢が上がるにつれて、単純にほめられて喜ぶということは少なくなってくる傾向もあるので、認められる経験が大事になってきます。

○子供に「～してくれる？」と依頼し、頼ることは、子供の存在を認めることにつながります。

○「現状を変えたい」と子供が願う時には、マイナスの感情であっても受け止めてあげましょう。

○苦手なことや失敗したことも認めましょう。失敗は挑戦した証なのです。挑戦したことやその過程をほめましょう。失敗を認めることで、子供は挑戦への勇気をもつことができます。

【感謝される経験】

○「自分の存在が役に立っている」と感じられることが重要です。「ありがとう」は子供を認めるための最高の言葉です。「手伝ってくれてありがとう」「発表してくれてありがとう」「友達を助けてくれてありがとう」。そして、「この学校にいてくれてありがとう」…「愛される経験」につながる、子供の存在を丸ごと認める言葉です。

一人の人間として認め、子供に対する

私たち教職員は、子供を一人の人格として尊重し、その姿から謙虚に学び、成長を支え、自らの成長を目指す大人の集団で在りたいと願っています。

令和5年4月、子供の人権や意見の表明等を保障した「こども基本法」が施行されました。学校では子供が自分で考え、選択し、自己決定する機会を重ねることで、主体的な態度を育てていきます。

「叱る」「叱られる」を見つめず

年度始めより、職員間で「ほめる」「認める」「叱る」ことの意義を共有し、その子が何を認めてほしいのか、見極める努力やタイミングのよい投げかけを重ねてきました。

ご家庭で、「ちゃんと叱るべきだったかな」とか「叱りすぎたかな」などと思われたことはありませんか。子育ての現場では、どなたにもそんな時があると思います。「ほめる」「認める」と同様に、「叱る」ことは子供の健全な成長にとって必要なことです。しかし、子供は「叱られる＝怒られる」と思い、ネガティブな感情をもち過ぎているようです。そこで学校の取組の一端を紹介します。ご理解をいただくとともに、ご家庭でも参考にいただければ幸いです。

授業「正しい叱られ方」の取組から

学年や学級によって工夫は様々ですが、基本的には以下の点を押さえました。

まず、叱る（相手のためを思って行い、よりよい行動に導く）と怒る（感情を爆発させる）の違いを理解させました。

次に、子供たちが安心して学校生活を送れるように先生が叱るときの基準を示しました。

- 1 自分や友達の名を危険にさらしたとき
- 2 人の不幸の上に自分の幸せを築いたとき

（友達をいじめた時や先生へのリスペクトを欠いたとき）

ここで指すリスペクト（敬意を表す）は、年配者などの目上の人を尊敬することではありません。年齢に関係なく、人を人として尊重し、気配りをすることです。敬意を払える人は幸せになります。

最後に、叱られたことを素直に受け入れて自分の成長につなげることが大切であり、「家の人もわが子の成長を願って叱っている」と話しました。

お子さんによって受け止めは様々ですが、『叱る』と『怒る』の違いが初めて分かった」「自分たちのことを思って叱ってくれる大人は素敵だな」といった前向きな感想を得た子もいました。「叱るのは相手のため、怒るのは自分のため」と言います。この授業は、行き過ぎた指導を防ぎ、お子さんがのびのびと諸活動に取り組むためでもあるとご理解ください。

学校では、叱る時も、次のように子供の自尊感情を保ち、育むことを心掛けています。

- ・ 子供の発言や行動には理由があります。一方的に叱るのではなく、その行動をとった子供の気持ちを確認し、そこに至る背景を考えたうえで冷静に指導します。
- ・ 叱った後は、「あなたのことを信じている」「あなたならできると思う」と、前向きなメッセージを送ります。



この文章を最後までお読みくださった皆さんも、子供にとって、誰かにとって、かけがえのない存在です。いつもありがとうございます。まずは、ご自分を認め、ねぎらうことをお勧めします。そのことが子供への豊かな愛情につながります。

今後も、子供を心から思い、勇気づける前向きな指導に心がけます。ご家庭や地域でもご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

<参考にした本>

「総合教育技術 2017.7 小学館『叱る』指導・認める『指導』」

「授業力&学校経営力 2024.7」「和田秀樹『優しい人』の科学 2024 中央精版印刷」

さわやかな声が響きました～小・中学校あいさつ運動

6月11日（火）の始業前、出雲崎中学校の生徒が通学路や児童玄関に立ち、小学生へさわやかなあいさつをしてくれました。その姿は、小学生のあこがれであり、よいお手本でした。生徒会の皆さん、小学生は、とても喜んでいました。早朝から、ありがとうございました。

あいさつは「あなたのことを見ていますよ」「大切に思っていますよ」というメッセージです。温かいあいさつの交わり合いが、子供の心を育みます。ご家庭でも、地域でも子供たちへのお声かけを引き続きよろしくをお願いします。



励まし合って記録へ挑戦ー全校体力テストー



6月12日（水）、全校体力テストを実施しました。この日行った種目は、「上体起こし」「立ち幅跳び」「反復横跳び」「長座体前屈」の4種目です。縦割り班で協力し合い、「がんばって!」「その調子!」と声を掛け、励まし合いながら、自己記録へチャレンジしていました。

このほか、学年（学年部）ごとに「50m走」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」「握力」を実施しました。

健康と体力は生活の基盤です。今後は、結果を受けた取組を大切にします。体育の授業や日頃の体力づくりなど、工夫して取り組んでいきます。ご家庭でもお子さんと相談して体力づくりに挑戦してはいかがでしょうか。

7月の行事予定

- 1日（月）～4日（木）個別面談
- 3日（水）___カウンセラー勤務日 13:00-16:30
- 4日（木）___カウンセラー勤務日 9:00-13:10
- 5日（金）漢字検定実施日 16:15-17:15
- 8日（月）中越教育事務所 授業改善訪問 5年算数
- 10日（水）___カウンセラー勤務日 13:30-16:30
- 17日（水）地域子供会5限
民生児童委員学校訪問 13:40-15:10
___カウンセラー勤務日 8:30-12:00
- 18日（水）___カウンセラー勤務日 9:00-13:10
- 24日（水）終業式
- 25日（木）夏季休業（8/26まで）

